

平成28年 4月 20日

「 福井銀行共同 森林環境保全の取組み 」

福井市有林 二枚田幹線林道

平成27年5月23日、福井銀行行員の方々約40名による森林保全ボランティア活動が催された。本活動は「福井県の地域発展と環境への配慮」を掲げる福井銀行と、「自然共生の森づくり」を掲げる株式会社 GreenCop の熱い意気込みによって実現したものである。福井市役所林業水産課のご協力のもと二枚田幹線林道の市有林（スギ林）にて設置作業を実施した。



写真1：福井銀行によるボランティア活動の開催挨拶



写真2：福井銀行社員方々の集合



写真3：人工林 スギ林への移動



写真 4 : 野生動物被害への対策活動



写真 5 : 福井銀行女性社員による被害対策活動



写真6：記念撮影の様子

以上、福井銀行社員の方々による積極的な森林保全・保護活動の取り組みである。森の中での実態や野生動物との共生となる森林環境の調査に基づき、足元が悪い環境林内での獣害対策の施業を実施した。

その際、野生動物の侵入により樹木被害が多発している状況や、多くの痕跡がある現状など専門家による説明が行われ、野生動物の痕跡など理解を深めていただいた。

今回の取り組みを通じて、自然豊かな森づくり活動の必要性に対する共通理解が深まり、更なる活動が広まることを期待している。

<二枚田幹線林道におけるニホンジカ林業被害>

近年、福井市内でもニホンジカによる林業被害が進行しつつある。福井市有林の二枚田幹線林道では、スギとヒノキの植栽木の樹皮剥ぎ被害が特に目立ち始めている。福井銀行によるボランティア活動後、この地点に合計3台の自動撮影カメラを設置し、野生動物の生息状況及び被害調査を実施した。

以下に、この調査を実施して明らかになった野生動物の実態を報告する。また、設置区域とそれ以外の区域間で比較することによって、被害対策の効果を検証した。



写真7：福井銀行ボランティア活動林内にて自動撮影カメラを設置する様子

表1：自動撮影カメラの設置状況

カメラ番号	エリア名	設置日	回収日	設置日数
1番	植栽地点	平成26年12月11日	平成27年11月26日	351日
2番	林道地点	平成27年3月24日	平成27年5月27日	65日
2番	福井銀行ボランティア地点	平成27年5月27日	平成27年11月26日	184日
3番	尾根地点	平成27年3月24日	平成27年11月26日	248日
4番	植栽地点	平成26年12月11日	平成27年6月10日	182日
4番	福井銀行ボランティア地点	平成27年6月10日	平成27年11月26日	170日
5番	尾根地点	平成27年3月24日	平成27年11月26日	248日
6番	植栽地点	平成26年12月11日	平成27年6月10日	182日
6番	福井銀行ボランティア地点	平成27年6月10日	平成27年11月26日	170日
7番	植栽地点	平成26年12月11日	平成27年11月26日	351日
8番	ササ地点	平成27年3月24日	平成27年11月26日	248日
9番	林道地点	平成27年3月24日	平成27年11月26日	248日



写真8：調査に使用した自動撮影カメラ（Ltl-Acorn社製の「Ltl-Acorn Ltl-6210MC」）

表2：カメラ2番における撮影結果 平成27年5月27日—平成27年11月26日(184日間)

撮影月・種	シカ	カモシカ	イノシシ	クマ	サル	アナグマ	タヌキ	キツネ	テン	ノウサギ	リス	ハクビシン	中型哺乳	鳥類	不明
平成27年5月										1					
平成27年6月	5		3						1	1					
平成27年7月	11	3	11												1
平成27年8月		3				1					3	1	5		2
平成27年9月	5	1	12			1			2				1		
平成27年10月			15							3					
平成27年11月	2		3						1	2					
合計	23	7	44	0	0	2	0	0	4	7	3	1	6	0	3

(数値は頭数)

表3：カメラ4番における撮影結果 平成27年6月10日—11月26日(170日間)

撮影月・種	シカ	カモシカ	イノシシ	クマ	サル	アナグマ	タヌキ	キツネ	テン	ノウサギ	リス	ハクビシン	中型哺乳	鳥類	不明
平成27年6月	9								1						
平成27年7月	7	1													
平成27年8月	4		4							1	1				1
平成27年9月	11		3												
平成27年10月	1	1	1												
平成27年11月			1												
合計	32	2	9	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1

(数値は頭数)

表4：カメラ6番における撮影結果 平成27年6月10日—11月26日(170日間)

撮影月・種	シカ	カモシカ	イノシシ	クマ	サル	アナグマ	タヌキ	キツネ	テン	ノウサギ	リス	ハクビシン	中型哺乳	鳥類	不明
平成27年6月	5														
平成27年7月	13	1	5								2				
平成27年8月	6		1			1									
平成27年9月	12														3
平成27年10月	2	1	1							1	4				
平成27年11月	1	1	10												1
合計	39	3	17	0	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0	4

(数値は頭数)



写真9：福井銀行森林保全ボランティア活動地点

今回、自動撮影カメラはいずれも170日あるいは184日間設置し、ほぼ同じ季節内で調査を行った(表1)。この自動撮影カメラ調査によって、二枚田幹線林道における野生動物の実態が明らかになった。

➤ 大型哺乳類の実態

2番地点では184日間連続の調査でシカ23頭、カモシカ7頭、イノシシ44頭が記録された(表2)。4番地点では、170日間連続の調査でシカ32頭、カモシカ2頭、イノシシ9頭が記録された(表3)。6番地点では、170日間連続の調査でシカ39頭、カモシカ3頭、イノシシ17頭が記録された(表4)。2番地点ではカモシカ・イノシシの撮影頭数が相対的に多いことから、動物たちは種ごとに好む場所が異なることが考えられる。また、合計3台のカメラで記録された総撮影頭数は、ニホンジカ94頭、ニホンカモシカ12頭、イノシシ70頭であった(図1)。

これだけの数が記録されたことから、二枚田幹線林道に生息する頭数は多いと考えられる。そして周辺の山林では、防除資材を設置していないスギやヒノキの立木にシカの剥皮被害が目立った。(写真9,写真10)。しかしながら、今回のボランティア活動によって資材を設置された樹木は野生動物による剥皮を受けていなかった。このことから、**今回のボランティア活動は福井市の森林保全に大きく貢献した**と言える。

➤ 中・小型哺乳類の実態

今回のカメラ調査では大型哺乳類だけではなく、アナグマ、テン、ノウサギ、リス、ハクビシンといった中・小型哺乳類も記録された。アナグマやテン・ハクビシンは撮影頭数が少なかった一方、ノウサギとリスは撮影頭数が比較的多かった。

リスは主に樹上で生息しており、餌もドングリや松ぼっくりをよく食べることから、樹木に対する依存度が高い。このことから、樹木の枯死はリスの生息地減少につながるため、今回のボランティア活動はリスの保全にもつながったと言える。

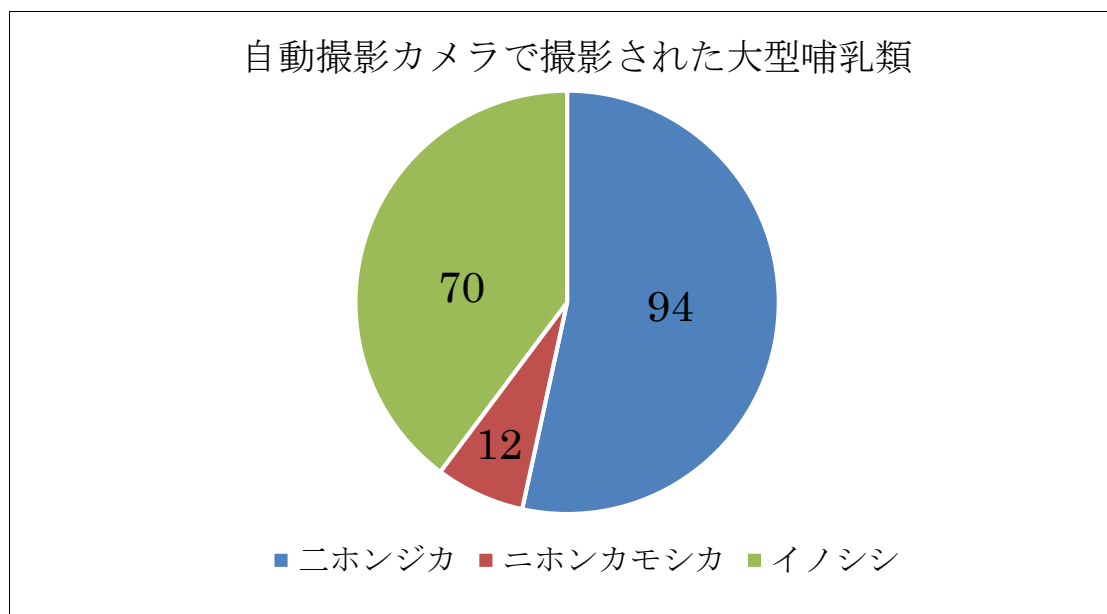


図1：福井銀行ボランティア地点における大型哺乳類の撮影頭数



写真 9 : 二枚田幹線林道周辺の二ホンジカ樹皮剥ぎ被害



写真 10 : 二枚田幹線林道周辺の二ホンジカ角とぎ被害

<今回撮影された大型哺乳類について>

▶ ニホンジカ (写真 11, 写真 12, 写真 13)

偶蹄目シカ科 学名 *Cervus nippon*

日本各地に生息している草食性の動物。オスにはツノが生えており、年齢が高いほど大きくなると言われている。

近年個体数増加によって害獣としてのイメージが強いが夏毛の鹿の子模様は非常に可愛らしく、女性から人気の高い動物でもある。

▶ ニホンカモシカ (写真 14)

偶蹄目ウシ科 学名 *Capreolus crispus*

シカと同じく草食性の動物だが、ウシの仲間。小さなツノが生えているが、シカと違って生え変わらない。色は白・黒・灰色など個体差がある。

▶ イノシシ (写真 15)

偶蹄目イノシシ科 学名 *Sus scrofa*

シカやカモシカと祖先は同じだが、より原始的な動物。雑食性で草の根や葉・ミミズなど様々なものを食べる。樹皮を食べることはほとんどないが、泥浴びの後に体を擦りつけ、樹木に傷をつけることがある。



写真 11 : ニホンジカ (オス) カメラ地点 2



写真 12 : ニホンジカ (メス) カメラ地点 4



写真 13 : ニホンジカ (平成 27 年生まれの子供) カメラ地点 2



写真 14 : ニホンカモシカ カメラ地点 4



写真 15 : イノシシ カメラ地点 2



写真 16 : リス カメラ地点 4



写真 17 : 二枚田幹線林道周辺で起きているニホンジカの影響で下層植生が減少している場所

< 総括 >

福井県の嶺南ではニホンジカによる深刻な被害が発生しており、嶺北にも広がりつつある(写真16)。これらの被害は今後一層拡大していくことが予想されており、被害を未然に防ぐことが求められている。今後も二枚田幹線林道にて更なる調査を実施し、野生動物の生息動向を監視するつもりである。

野生動物は害をもたらすがそれ以前に共に生きてきた仲間である。日本人は古来、野生動物と共存しながら生活を営んできた。その中で野生動物を神様として祀るなど、親しみや畏敬の念を抱いてきた。近年でもシカやウサギなどは可愛らしいキャラクターとして子供たちの優しい心の育成に貢献している。また、野生動物は豊かな森を育むために必要不可欠な存在である。動物が果実を採食し、種子を遠くに運ぶことで、植物は繁栄することが出来る。

二枚田幹線林道には多くの野生動物の生息が確認された。そのような場所であっても、樹木に資材を設置することで被害を未然に防げることが示された。今回の活動は人と野生動物が互いの領域を侵さず共存を実現していく上で、非常に重要な活動だったと言える。

野生動物との共存は行政や農林業従事者だけの問題ではなく、市民を含めた全ての人々が携わっていかなくてはならない問題である。福井銀行の参加者の中には、日頃自然と触れ合う機会が少ない方も多かったことと思われる。今回の活動を通じて福井銀行の皆様やそのご家族様が森林保護の大切さを考えるきっかけとなれば幸いである。

株式会社 Green Cop
里山獣類研究所

<二枚田幹線林道周辺で確認された動物>

今回のボランティア地点以外の二枚田幹線林道周辺で撮影された動物たちもいる。これらのことから、ここでは多くの動物が共存していることが明らかになった。



写真 18 : ツキノワグマ



写真 19 : ニホンザル



写真 20 : アナグマ



写真 21 : タヌキ



写真 22 : キツネ (獲物ノウサギ運搬)



写真 23 : テン



写真 24 : ノウサギ



写真 25 : ハクビシン (外来種)